

TOKUSHIMA INNOVATION HUB

中山間地域における肉用鶏のスマート飼養管理技術の開発

リーダー：徳島県立農林水産総合技術支援センター



チームメンバー：吉野川養鶏農業協同組合、株式会社イシイ

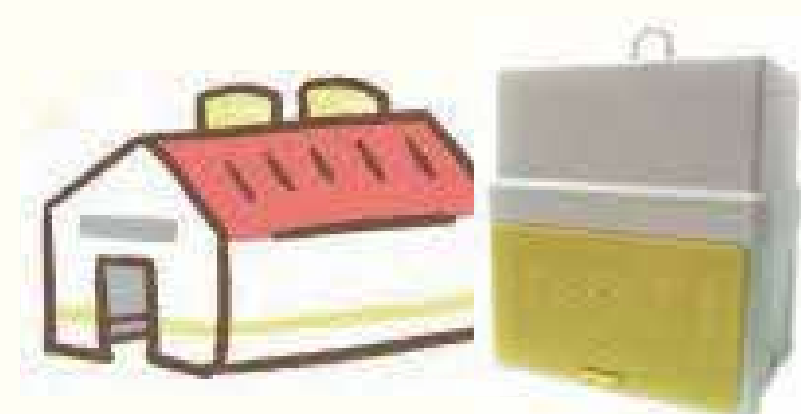
背景

- 県西部の肉用鶏生産額は、39億4千万円（R4年度）と主要産業
- 一方、生産者の高齢化等による担い手不足や、山間部に点在する養鶏農場の管理作業が大きな負担
- 令和6年9月に生産者団体及び関連民間事業者を核とした「にし阿波・山のチキンファーム構想」コンソーシアムを設立→担い手対策から生産、販売までの一貫した取組に着手



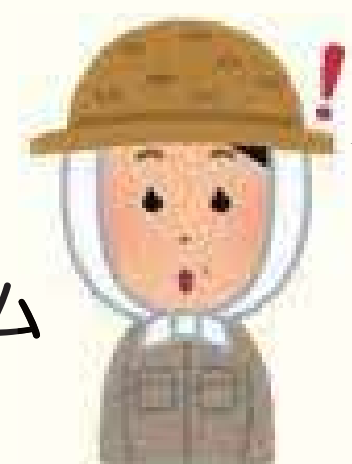
目的

- スマート飼養管理技術の開発に取り組み、肉用鶏生産の課題解決を加速
- 新たな担い手が安心して参入できる環境を整備

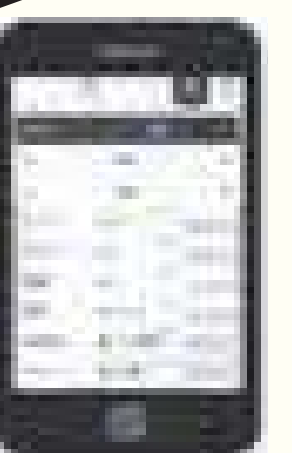


鶏舎内環境測定システム

リアルタイム



山の麓で
チェック



活動内容

取組内容① 現地農場における飼養管理実証試験



- ✓ 現地農場へシステムを導入
- ✓ 環境データの蓄積や出荷時育成成績の調査
⇒県西部の気候環境に沿った利用改善へ
- ✓ 作業時間の調査
⇒農場管理者の軽労化効果を可視化



取組内容② 試験鶏舎における飼養試験



- ✓ 試験鶏舎へシステムを導入
- ✓ 週・日齢毎の詳細なデータの蓄積・調査
⇒システムの改良へ



今後

- ✓ 中山間地域の気候に沿ったシステムの改良
- ✓ 作業負担の軽減、技術継承の促進につなげる
- ✓ 持続可能な養鶏業の発展を目指す